おとしより
ふくしの笑顔
まっている
－福祉標語入選作品から－

笠間市社協 宍戸支部だより

第119号
平成29年11月10日発行
発　行　笠間市社協宍戸支部長
伊東　勝男
編　集　宍戸支部広報委員会
印　刷　大塩企画

たずねてみたら No.94

お気に入りの風景 宍戸を一望

「心の医療センター」から宍戸方面へ向かうと「橋爪はなさか」の交差点がある。

この交差点から、友部I・Cに通じる新道「宍戸小学校前」までの間が開通した。「橋爪はなさか」交差点を少し下ると、あたりはさえぎるものはなく、宍戸の町並みがほぼ一望できる絵になる風景が広がる。

右には、「宍戸苑」左には「はなさか」正面には「宍戸小学校」が整然と建っている。

夏が近づくと、左右に広がる緑の田畑、近くには、濃い緑の加賀田山、遠くには幾重にも連なる青い山を望む。夕方になっても、青い空に白い入道雲が残るなか、太陽があたりを赤く染めながら、山の向こうへ沈んでいく。刻々と変わる空の色は美しく見ていて飽きない。

夏も終わりを迎える頃、稲刈りを待つ田んぼ一面が、黄金色になる。実り・収穫の秋を感じる。

これからの時期冬の夜は、満天の星、家々にともる明かり、縁石に埋められた反射材、変わる信号機の色、動く車のライトの光、所々にイルミネーションの輝き等が目に入る。寒く暗い夜でも、まばらだがその輝きは美しく心がいやされる。

少し遠回りになっても、この道を通りたい。

よりよい地域づくりをめざして　地区懇談会

たしかな情報を得て 日々の暮らしを安全に

地区懇談会は、6月24日から7月9日までに14会場を回り行われた。延べ388人が参加した。

講演テーマは、

・振り込め詐欺の実態と対策
・地域の犯罪情勢と防犯対策
・子どもを対象とする不審者の現状と対策（右記の三つは笠間警察署）
・自主防災の基礎知識（市総務課）
・迷惑電話対策（市消費生活センター）
・夏の健康対策（市保健センター）
・ごみの分別・小型家電リサイクル（市環境保全課）

で、この中から一つを各会場の行政区が選んだ。

今年が初めての「ごみ分別・小型家電リサイクル」の講話では、不燃ごみ（有料）で出していた小型家電（デジカメ・携帯電話含む30品目）には、貴重な金属資源が多く含まれていて、東京オリンピックでは、この資源がメダルになるという。市では、これらの小型家電の処分は環境保全課へ直接持ち込みをと呼びかけた。

警察署・消費生活センターの講話では、最近の犯罪手口の巧妙さが目立っているという。笠間市の男性が二セ電話詐欺で1千万円の被害にあった。講師は、怪しい電話は、いったん切り、必ず誰かに相談することと話した。講話のあい間にピアノが得意という笠間署の山口警部は、ピアニカの演奏をし、会場の参加者を喜ばせた。

保健センターからは、熱中症を防ぐには、喉の渇きを感じなくてもこまめな水分補給をと。

総務課からは、災害時は情報を知って早めの避難、自分の身は自分で守る。と話した。

宍戸小・友部中・友部高の先生方も出席した。各校共、一部に規範意識の低い生徒が見られるも、学習に運動に励んでいる。地域の方々には、引き続き見守りを願いたい。等を話した。

▲7/1小人町集落センターで

友部高校が今年から改革始まる

改革のひとつとして、地元の方々に愛されるにはまず「あいさつが出来ること」を一番にあげ、先生方は一丸となって指導に取り組んでいる。

講演後の懇談会では、防犯灯、通学路のこと、見守りについて等多くの意見が交わされた。参加者からは、「地域のことや防犯対策等よくわかった。来年も参加したい」の声が多く聞かれた。

市社協からはフードバンク（家庭で余っている食品を、必要としている人へ届ける）についての話があった。

全品買い得 福祉バザー

5月27日宍戸小学校運動会に合わせて、福祉バザーが体育館で開催された。

開場とともに大勢の人が入り大盛況。売る側としては、うれしいことである。

人気商品は、例年のごとく食料品、洗剤、シーツ類である。

男の方で一人での買い物姿も多くみられた。

児童は、競技の関係で少し遅れての会場入りであった。それぞれが楽しみ、品定めをして購入している姿はほほえましい。

年齢様々それぞれの思いの中で買い物を楽しみふれあう時間はいつもながら良い光景である。

値付けの際は、注意を払っているが、買った方が満足したのかといつも気にかかるところである。それでも多くの人が、寄付された善意の品々を喜んで買い求めていた。

▲お買い得品がいっぱい

家にあるもので自分で作る ものづくりわくわく体験

8月20日「ものづくりわくわく体験」が宍戸支部会館で行われた。参加者は子ども24人、保護者5人、社協関係者ら19人。

指導者は會澤和美さん（南小泉1）で、トイレットペーパーの芯を使った飾り物、新聞広告等を使って紙てっぽう・紙ひこうき・ごみ箱、竹馬等を作った。

トイレットペーパーの芯に自分の好きな紙や白い紙に絵を書いてはり、糸で3個程つり下げる。一番下の短冊には「ありがとう」と書いた。

紙てっぽうは利き手で持ち、手首を強くふるとパーンと音が出る。

紙ひこうきが長く飛べるように折り方を変えながら試した。

竹馬は丸竹（20㎝位）をたて半分に切り穴をあけ、ひもを通し、足駄のように足指にはさんで歩く。子どもたちは、はだしになって竹馬に乗り、竹の感触を楽しんだ。

昼食はカレーライスを食べながら、ラムネをのんだ。

食後のスイカを食べた後は、おなじみの大塚松寿さんによるマジックショー。時々見える「たね」や「しかけ」に子どもたちは、解説を始め会場は大笑い。それでも「ハンカチの移動」には、皆が不思議そうに見入っていた。

▲紙を折って工夫して

交通安全への意識高まる

安全運転中央研修所を視察

10月10日福祉推進員の研修がひたちなか市にある「安全運転中央研修所」で行われた。参加者は39人。

研修所の広大な敷地に「運転上の危険」を安全に体験できるコースをはじめ、多種多様の設備の中で安全運転の基礎と応用について学ぶ。研修生は、自動車の運転に関し高度の技能や知識を必要とする運転者、安全運転管理者、青少年等で、年間1万3千人が研修を受けている。

私たちは敷地内の交通公園で、道路の正しい歩き方・渡り方や左折車の巻き込み事故・衝突事故の実験を研修した。

▲止まって左右を確認

衝突事故の実験では、時速40kmで走る車が飛び出した子ども（人形）をはねた。ドーンと音がして子どもは前方へ飛んだ。傍にいた女性職員が急いで子どもにかけより、いとおしそうに抱きかかえ運ぶ姿が強く印象に残った。

この場面を目の当たりにした参加者の皆さんは改めて交通安全への意識を高めたようだ。

屋内では飲酒体験ゴーグルをつけて千鳥足。夜間の歩行には反射材の効果が高いことを学んだ。

道路を通行するにあたって

・飛び出しはしない・安全を確かめる・曲がる自動車には近づかない そして「確認」と「止まる」を習慣づけることが事故を防ぐと職員は話した。

第31回 GROUND GOLF 元気もらえた！

▲6月6日　入賞の皆さん

6月6日北山グラウンドで宍戸支部高齢者グラウンドゴルフ大会が開催された。

雲間から時々夏の陽の光がさすなか、選手83人は元気に日頃の練習の成果を見せてくれた。

誰もが「入った、ホールインワン」と思った瞬間、ボールはホール外へ出てしまった。

見ていた仲間からの歓声が、ため息に変わる。この場面が各所で見られた。

選手の技量はすばらしく向上し、あまり差のないことも感じられる。

ホールインワンは19人。

前回2位入賞の須藤みゑさん（96歳）は、今回も3位に入賞した。選手共々、参加者全員が大きな拍手を贈り健闘をたたえた。

表彰者（敬称略）

		スコア
男子の部		
1位	酒寄　方治	37
2位	中島　　功	37
3位	伊藤昊太郎	40
女子の部		
1位	伊藤　俊子	38
2位	倉持　洋子	39
3位	須藤　みゑ	40

（同スコアの場合高年齢順）

まちの声・むらの声

交流の大切さ学ぶ

ベリオ・コリナ会区
鳥沢隆文

この度、笠間市社会福祉協議会宍戸支部主催の「夏休み小学生ものづくりわくわく体験」へ親子で参加させていただきました。絵を書いて飾り物を作ったり、紙で音の出るものを作って遊んだり、紙飛行機や竹馬で遊んだりと普段とは違う遊びに娘と共に私自身も童心に返って遊ばせていただき、とても楽しく過ごせました。また参加者は1年生から6年生まで各学年の子が参加し、主催者の方々含めると幅広い年代の方々がいらっしゃいました。幅広い年代の方と交流を持つことで、様々なお話や考え方を学ぶことが出来、娘共々とても良い機会になったと思います。

私は笠間市（旧友部町）へ小学3年三学期のときに転居してきました。小学校は3校変わり、転校が多いことから地域への思い入れも少なく、それが当たり前の環境で育ってきました。しかし私も結婚し子を持ち笠間市へ戻ってきてから、地域の方々の支えに助けられ、地域の方々との交流の大切さを日々感じています。また地域と交流を通して、これから子どもたちが育っていく笠間市にも関心と愛着を持つことができました。社会福祉協議会のこのような機会を提供していただく活動も、世代交流、地域交流を図れる非常に良い活動だと感じます。

今後の更なるご活躍をお祈りするとともに、またお世話になる際は宜しくお願いいたします。

今も続く温かい見守りに感謝

大田町2
根本乃梨子

娘が宍戸小に入学し、改めて宍戸の町並みに触れる機会が増えた。私は宍戸小の卒業生である。また、私の父も同じく卒業生であり、三世代に渡って宍戸小にはお世話になっているのである。共通の話題で盛り上がることが出来るのはとても楽しく、そして嬉しい。

この数年の中で、娘とともに自宅から学校までの歩く機会が何度かあった。すると、自分が通っていた頃と比べてだいぶ景色が変わったことに気付いた。狭かった道の拡張や新たな信号機の設置により、学校へ通う子どもたちだけでなく、住民全体も生活しやすくなった。時代の流れと共に変化した部分がある一方で、ずっと昔から変わらない部分がある。それは"大人が子どもを温かく見守っている"という部分である。登下校の途中や社協主催の催しなどの場面を通して強く感じた。地域の方々が優しく、そして気さくに接して下さることで子どもたちに安心感が生まれる。自身が小学生の頃を振り返ってみても、そういった安心のもと生活出来ていたように思う。大人になった今も地域の方々に支えられて生活できている。特に、育児の面では悩むことが多く、周囲のサポートが不可欠であることを実感する、そんなサポートが充実した中で育児が出来ることに心から感謝したいと思う。

宍戸の子どもたちを見て思うのは、皆明るく意欲的ということである。これから先もずっとこの風潮が続くよう、私も子どもたちを見守っていきたいと思う。

平将門史跡と逆井（さかさい）城を視察

友部公民館主催の歴史出前講座

「平将門史跡と逆井（さかさい）城をめぐる」が9月27日に行われました。参加者39人は、一路坂東市へ…。

バスの中では、南秀利先生の歴史の講話があり、皆さん資料を見ながら熱心に聞き入っていました。

初めに訪れた逆井（さかさい）城は1450年小山常宗が築城したのが始まり。その後、小田原の北条氏が攻め落とし一時廃城。その北条氏は、拡張工事を行ったものの1590年に豊臣秀吉に攻められ、再び廃城に…。城の名残りとして外堀や土塁が残るものの、主殿や二層やぐら、堀、橋などを復元し、400年程前のたたずまいが今よみがえっています。

次に向かったのは、将門が命を落としたと伝えられる国王神社へ。

将門の三女、如蔵尼が父の庵（いおり）を建てたことにさかのぼり、将門33回忌に刻まれた「平将門木像」がご神体となっています。皆、合掌です。

また、将門の遺体の胴部分が埋まっているとされる延命院の塚の上には巨大なカヤの木が守るように立っていました。いつも花が供えられていて、地域の方々に尊敬されているとのことです。

参加者の多くが「歴史を学ぶことができ良かったです」と話していました。（関記）

▲ガイドさんの説明を聞く

感想文

（8月20日実施　夏休み小学生ものづくり　わくわく体験　感想文より）

根本　萌衣

今日は、マジックがおもしろかったです。しかけがちょっとだけみえておもしろかったです。

お昼のカレーがとてもおいしかったです。

一番楽しかったのは竹馬です。

おうちに帰って、じいちゃんやばあちゃんにも見せたいです。（小3）